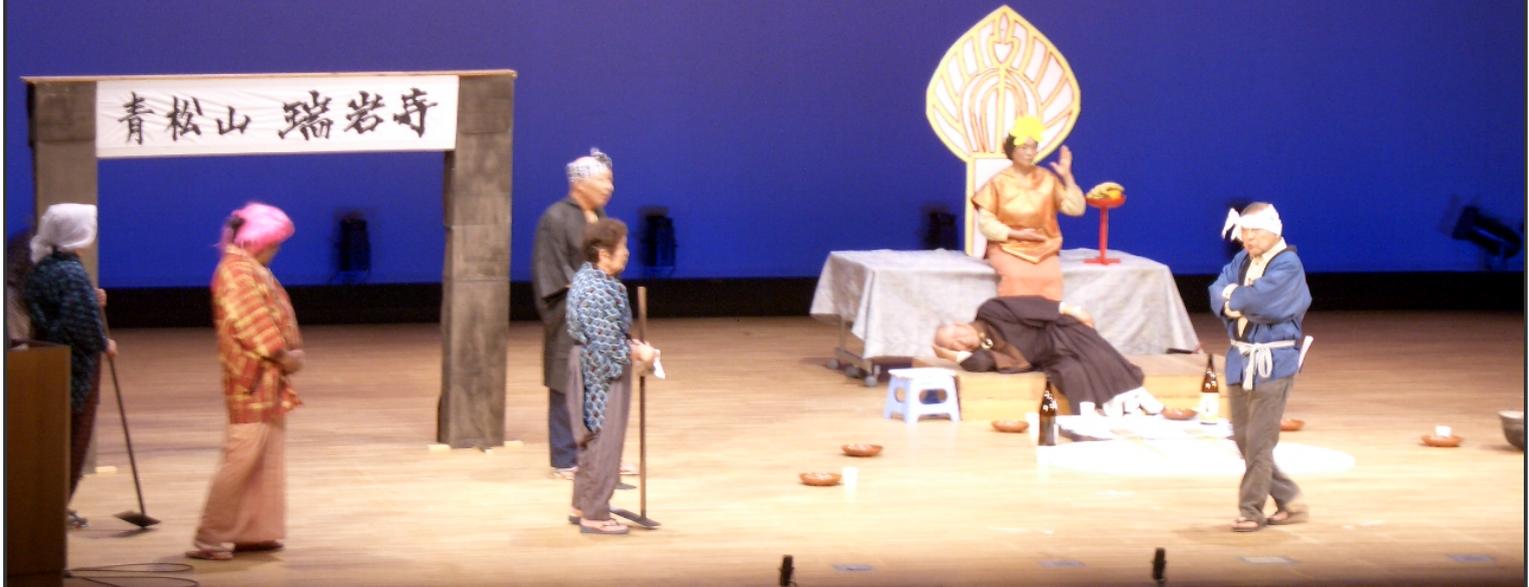


そうだ！   
 田舎にくらそう  
 2017

元・川西町地域おこし協力隊の6年後のお話、  
 企画・構成・文・撮影etc...全部： 遠貴旭  
 イラストモデル： チャッピー（元・小方家）



### 「ねほだれROCK大会」

いきなりですが、急性胃腸炎じゃないかというくらい、お腹が痛い。なんと2日間ずーと痛いのです。こんなの初めてだ！ 仕事中は辛かった…。で、今も痛いのですが、何なんでしょうか？

よく、年配の方は口をそろえて「体を大事にしろ」と言います。その通りだと実感しました。腹痛だけで、夜も眠れない、何も食べれない、仕事も出来ない、家でも何も出来ない。昨日の夜は、このまま亡くなるんじゃないかと思い、携帯を枕元においてメールで遺言じみた文章を作ったくらいです（笑）今は文章打てるくらい落ち着きました。でも痛い！！

さて、元気が一番！ 当たり前のようで当たり前ではないこの現実。高島の「ねほだれ大会」には人生をかけて笑わそうと奮闘する生き様を、高齢者。。。いや、レジェンドたちが舞います。

ラジオのレポートで出演者に話を聞く機会があり、ベテランのじいちゃんの話聞いていたのです。その人は、本番で、ひたすら下ネタで高齢者ならではの弱さを笑い、息があがって何を言ってるかわからない。ひたすら滑稽さを売りに演じます。

はじめて観るなら、「まーじいさんだから、しょうがない」なんて思うかもしれない。いやいや、そうではないのです。この人は、過去何年にもわたり出演し、息子さんと共演。親子がつながる時間だったのです。しかし、その息さんが亡くなり。いつも出演の前には、息子さんへの誓いの言葉を読み、出演するわけです。そんなこと、あの会場のだれが知っていたら？

彼は言いました。「こういうものは、とことんやらなくてはダメだ。見栄もプライドも名誉も性別も(?)捨てて」。中途半端にやることは、息子さんへの失礼になると言い、練習していた台詞も進行も全部踏み倒して、本番ではアドリブにまかせ、息が切れて倒れこむまで踊り続けます。これは。。。そうだ！ ROCKだ！

何事もそうですが、全力というのは観ていて気持ちがいいものです。音楽とか演技とか、芸術的なセンスが問われるものは全力だけでは芸にならないのですが、ねほだれは違います。高齢者だから出来ること、高齢者じゃなければ出来ないこと、これが全てなわけなんです。

日本全国どこにでも、若者もいれば、お年寄りもいるわけで、この町ならではなんてのはないのかもしれませんが、人に差はないわけですから、活気がある、元気！ それだけで、ただただメリットしかないと思うのは、腹痛に悩まされている僕だからこそ、語れる言葉です。